JALデジタル、Platform Engineering に着手し 開発者の支援を強化

JAL DIGITAL

日本航空（JAL）グループのデジタル領域を担うJALデジタル株式会社（JALDX）は、開発者の認知負荷を軽減し生産性向上をはかるため、Platform Engineeringを開始。組織横断的なチームを編成し、Red Hatコンサルティングの実践的トレーニングにより、自律的なエンジニア育成を推進し、組織やプロセスに踏み込むことで経営層が積極的に関与する変革ガバナンスを確立しました。また、柔軟性に優れたスケーラビリティの高いシステムを目的として、Red Hat OpenShift Service on AWS およびRed Hat Developer Hub (RHDH) を採用して開発者支援とリードタイム短縮を実現し、持続可能なプラットフォーム構築を推進しています。

Industry

ITコンサルティング・サービス

本社

日本 東京

従業員数

1,096名（2026年3月末）

「オープンソースに深くコミットしているRed Hatはソリューションの現在地を捉えることに非常に敏感だから、常に次の一手に対する的確な提案をしてくれます。Red Hatの伴走は心強い限りです」

酒匂大輔氏
JALデジタル株式会社
デジタルマネジメント部
デジタルデザイン企画グループ
スペシャリスト



ソフトウェアとサービス

Red Hat Consulting
Red Hat Developer Hub
Red Hat® OpenShift® Service on AWS

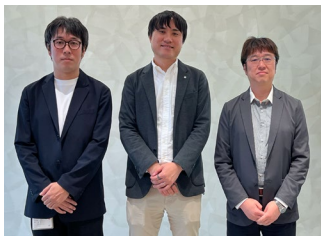
メリット

- 自律的に業務遂行できるエンジニア育成に向けた実践的な教育プログラム
- Red Hat Developer HubとRed Hat OpenShift Service on AWSにより、開発者の認知負荷を軽減
- 開発環境のセットアップ期間を165日から30分に短縮

Red Hat Innovators in the Open

About Red Hat Innovators in the Open

Innovation is the core of open source. Red Hat customers use open source technologies to change not only their own organizations, but also entire industries and markets. Red Hat Innovators in the Open proudly showcases how our customers use enterprise open source solutions to solve their toughest business challenges. Want to share your story? Learn more.



（左から）酒匂大輔氏,
矢是秀明氏, 樋口寛之氏

「次世代へスムーズに
バトンを渡せるような
汎用性を備えた
プラットフォームを
作ることが目標です。
そこでは
文脈を捉えた
アプローチを行う
Red Hatこそ
最適なパートナーです」

矢是秀明氏
JALデジタル株式会社
デジタルマネジメント部
デジタルデザイン企画グループ
プロフェッショナル

多忙な開発者に理解されず、空振りだったAPI標準化

日本航空株式会社（以下JAL）はITシステムの安定稼働、DX（デジタルトランスフォーメーション）のさらなる加速を図るため、JALのデジタルテクノロジー本部とJALグループのIT中核企業である株式会社JALインフォテック（JIT）を統合することでデジタル推進体制を一体化し、JALデジタル株式会社（以下JALDX）を設立しました。

JALDXではITグランドデザインに基づき、開発者の認知負荷を軽減し生産性を向上させるための各施策を推進。その施策の一つが開発効率と品質の向上、運用や保守の簡素化、セキュリティ向上を目的としたAPI (Application Programming Interface) 標準化でした。しかし、API管理基盤は導入されたものの、APIは開発の現場には思ったように浸透しませんでした。

その理由について、デジタルマネジメント部 デジタルデザイン企画グループ スペシャリストの酒匂大輔氏は次のように説明します。「負担を軽減する基盤を作ったので使いましょう、とアピールしてもほとんどの開発者にとっては機能が一つ増えただけという認識なのです。社内には共通基盤が100以上ありますから、API基盤もそのうちの一つという捉え方です」

酒匂氏とともに基盤全体のデザインを進めた同グループ プロフェッショナルの矢是秀明氏も「機能としていくら優れたものを構築したところで、使う側が使いやすい状況を考えて提供しなければ絵に描いた餅になってしまうことは今までに幾度となくありました」と言います。

包括的視点で課題を洗い直し、Platform Engineeringへ

技術戦略を担当するデジタルデリバリー部 デジタル応用開発グループ グループ長の樋口寛之氏もAPI開発推進を担当したメンバーの一人で「開発者のプラットフォームを汎用化、標準化しようという動きは以前からあった」と言います。

「しかし、課題が多すぎるのです。品質の強化、セキュリティの強化、開発の高速化、開発者支援、PC環境の標準化など次から次へ課題がある中で、どのように進めるのがベストなのか、どこから手をつけるべきなのか、バランスと絞り込みの難しさがついて回ります」と付け加えます。

API標準化が定着しなかったことを受け、開発推進メンバーは再度検討を重ねます。そして、開発者、エンジニア、プログラマーだけではなく、包括的な視点で全社に渡って課題を洗い直し対策を打つべきだという結論に達しました。酒匂氏はその経緯について次のように話します。

「もちろん課題は多岐にわたるのですが、一方で視野が狭いのではないかという反省もありました。全社員のメリットを念頭に置き、継続して仕事の負荷を軽減し生産性を向上させる環境を作り出すこと、まずはその土台作りを目指しました。そして、Platform Engineeringを中心に据え、その一つとしてAPIという小さな改善から始めるという発想に転換しました」

開発推進チームはPlatform Engineeringを進める上で、その伴走者にRed Hatを選びました。オープンソースの原則と技術協力におけるRed Hatのグローバルで中立な視点、長期的視野での段階的なソリューションの提案を高く評価したためです。

矢是氏は「目の前にある課題をとにかく打開していく、それも必要なことですが、対症療法的なソリューションは私たちが本来目指すところではありません。持続可能で、次世代へスムーズにバトンを渡せるような汎用性を備えたプラットフォームを作ることが目標です。そこでは文脈を捉えたアプローチを行うRed　Hatこそ最適なパートナーです」と言います。

「Platform Engineeringは文化に近いものだと思います。Platform Engineeringの根底には 企業それぞれの特徴があるし、企業文化は社員一人ひとりが関わって積み上げて形成されていくものです。外からの押し付けでも、上からの押し付けでもいけない。」

樋口寛之氏
JALデジタル株式会社
デジタルデリバリー部
デジタル応用開発グループ
グループ長

長期的視点でPlatform Engineeringにアプローチしスケーラブルなシステムを構築

自律的に業務遂行できるエンジニア育成に向けた実践的な教育プログラム

Platform Engineering推進チームは活動を全社に広げるため、組織横断でチームメンバーを募りました。例えば一口にアプリケーション開発と言っても、運航、整備、貨物、旅客など分野が違えば開発プロセスも異なり、サイロ化が起きやすい状況にあります。これらのギャップを最小化するためにも組織横断的なチームが必要だからです。

「Platform Engineeringはそれ自体が一つの文化と言えるものです」と樋口氏は言います。「文化は経営層が上から押し付けても作れるものではありません。全ての社員が真の当事者意識を持ち、それぞれが独自の視点を持ち寄って初めて文化は発展します。リーダーとしての私たちの役割はトップダウンで解決策を押し付けるのではなく、若手エンジニアがごく自然に互いの課題を理解し共通の目標に向かって協力して取り組めるようなコラボレーションの場を作ることにあります」

そこでJALDXではRed Hatによる若手社員のトレーニングを実施し、次世代のリーダー育成を開始しました。このトレーニングはJALDXの具体的なビジネスニーズと既存のスキルギャップを詳細に分析し、実践的なアプローチにより行われました。このアプローチの最大の特徴は「ガイダンス付きリアルタイム学習」の導入です。これにより、参加者は実際のビジネス課題を解決しながら技術スキルを習得することができます。

「最初はトライアルとして何人かの若手社員にトレーニングを受けてもらいましたが、そこで非常な手応えを感じました。メンバー間の知識の偏りが少なくなり、正しい製品知識も身につけることができる。マインドに大きな変化が現れ、楽しみながら成長していることが実感できたので、継続してRed Hatのトレーニングを実施しています」と酒匂氏は言います。

Red Hatのトレーニングでは「エンタープライズアジャイル」「アウトカム・デリバリー」「プラットフォームエンジニアリング」「次世代リーダー育成」などの領域で、知識を身につけるトレーニングと共に実務者を伴走支援し定着を後押しするコーチングが組み合わされ、実践的なスキルが着実に現場に浸透していきました。

Red Hat Developer HubとOpenShift Service on AWS により、開発者の認知負荷を軽減

Platform Engineering推進チームは持続可能なプラットフォームを目指す上で、柔軟性、透明性、安定性を持ち自由度の高いソリューションを重視しています。

矢是氏は「私はIT-BCP にも携わっていますが、変化の早い世界情勢やテクノロジーの加速度的進歩を考えると、ソリューションを選択する際のリスクコントロールがますます重要になっていると感じます。特定の何かに依存しないような仕組みを作ることがベストです」と言います。

オープンソースソフトウェア（OSS）を利用することでベンダーロックインやブラックボックス化を回避し、柔軟なカスタマイズ、汎用性のある技術の習得が可能になります。今回、JALDXはRed Hat OpenShift Service on AWS を導入し、Red Hat Developer Hub をRed Hat OpenShift Service on AWSで活用することで、開発プロセスの標準化やセルフサービス化を促進し、開発者の認知負荷を軽減しました。

「クラウドネイティブ開発においてコンテナプラットフォームは不可欠な技術。中でもRed Hat OpenShiftは機能と安定度に優れており、何よりフルマネージドなので運用負荷が大幅に軽減されました。さらにRed Hat OpenShift Service on AWSがスケーラブルなプラットフォームを提供するので、新しいチームが迅速にオンボードできる。開発案件リリースまでの期間を短縮できたのはこれらのRed Hatソリューション によるところが大きいです」と酒匂氏は言います。

開発環境のセットアップ期間を165日から30分に短縮

Platform Engineering推進活動は、チームビルディング、ロードマップ作成を経て、現在、実装フェーズを進行中です。段階を踏んだアプローチで組織横断的なチーム編成、トレーニング、さらに経営層へのプレゼンテーションと予算獲得など、多面的な活動によって将来への道筋が見えてきました。

樋口氏は「Platform Engineeringによって開発プロセスが変わりつつある」と言います。「私がDX推進に関わっていた時、PoCで成果を見込めても、そこから本番環境を作る際は一年後の予算に組み込まれ、長いリードタイムがかかることがありました。一年後にはその技術が古くなる可能性だってある。それが Red Hat Developer Hubなどによりセルフサービス化が進んだことで、時間をかけずにアイディアを形にすることができるようになりました」

実質的な成果はこれから積み重ねていくことになりますが、Platform Engineering推進チームは現時点で見込まれる効果として、開発着手までの準備期間のリードタイムを165日から30分へ短縮、少なくとも年間6.2億円のコスト削減を見込んでいます。

酒匂氏は「これらは今見込めている数字であって、開発案件リリースまではさらに短縮できると思っていますし、コスト削減もこの何倍にも達することができると考えています。さらに今後ゴールデンパスの提供やセキュリティポリシーの自動化によりセキュリティリスクが大幅に減少しますので、それも数値目標化していきます」と言います。

Platform Engineeringは企業の将来を作る土台。柔軟な発想力を次世代へバトンする

現在JALDXはドキュメント集約を進めており、さらなる開発者の認知負荷軽減やゴールデンパスの確立に向けPlatform Engineeringを展開しています。全社的な展開へ向けた活動が徐々に浸透し、Platform Engineeringと並行してエンタープライズアーキテクチャガバナンスに向けた取り組みも開始されました。

酒匂氏は「JALグループのビジネス戦略とITシステムを最適に連携させるため、必要なドキュメントやソフトウェアテンプレートを作り始めたところです」と言います。今後、エンタープライズアーキテクチャガバナンスをガードレールとして確立することで、アジリティを損なうことなくJALグループの成長とセキュリティを両立させることが目標です。

また、国内外のパートナー企業にPlatform Engineeringを適用していくことも視野に入れています。樋口氏は「オフショアも含めパートナーに開発を委託する場合、品質の保持やコスト面の課題がありましたが、Platform Engineeringで標準のテンプレートを適応すれば課題は一気に解決します。JALDXのリスクコントロールにつながります」と言います。

さらにはPlatform Engineeringの専任チームLUX（ルクス）が発足し、Platform Engineering活動の道標となっています。矢是氏は「Platform Engineeringはスタートラインに立ったばかり」だと前置きした上で「ただ、出来上がっているものは一部でも、全体をスコープにした進め方はできています。もちろん今の進め方が絶対的で不変な正解ではないし、技術の進歩に伴い、次世代のメンバーが新たな道を切り拓き軌道修正していくことでしょう。LUXにはメンバー同士が議論し自律的に推進する文化が根付きつつありますので、彼らの今後の活躍に大いに期待します」と言います。

酒匂氏はPlatform Engineering推進の手応えについて次のように語ります。「全体を捉えながら、小さな成功体験を積み上げていくという私たちの狙いは順調に進んでいると思っています。また、オープンソースに深くコミットしているRed Hatはソリューションの現在地を捉えることに非常に敏感だから、常に次の一手に対する的確な提案をしてくれます。Red Hatの伴走は心強い限りです」

JALデジタルについて

JALデジタル株式会社はJALグループのIT中核企業として、航空事業の安全・安定運航を支えるシステム開発を多岐にわたって展開し、顧客体験向上に大きく貢献しています。航空業界をメインフィールドにシステムコンサルティングやパッケージ、ツールの提供などを行うほか、近年はアジアのIT企業と戦略的な協業体制を構築するなど、非航空分野での新たな価値創出にも積極的に取り組んでいます。



About Red Hat

エンタープライズ向けオープンソースソリューションのプロバイダーとして世界をリードするRed Hatは、コミュニティとの協業により、高い信頼性と性能を備えるLinux、ハイブリッドクラウド、コンテナ、Kubernetesの各テクノロジーを提供、さらにフォーチュン500社の信頼できるアドバイザーとしてRed Hatは、受賞歴のあるサポート、トレーニング、コンサルティングサービスも提供しています。レッドハットは、企業、パートナーおよびコミュニティのグローバルネットワークの中核として、企業の成長や変革のために、ITの将来に向けた革新的なテクノロジーの創出を支援しています。

North America
1 888 REDHAT1
www.redhat.com

Europe, Middle East, and Africa
00800 7334 2835
europe@redhat.com

Asia Pacific
+65 6490 4200
apac@redhat.com

Latin America
+54 11 4329 7300
info-latam@redhat.com

facebook.com/redhat
x.com/RedHat
linkedin.com/company/red-hat

redhat.com

Copyright © 2026 Red HatおよびRed Hatロゴ、およびOpenShiftは、米国およびその他の国におけるRed Hatまたはその子会社の商標または登録商標です。